

12/25 福井

# 上関の中間貯蔵59%反対

## 山口・住民調査 永続化懸念

原発の使用済み核燃料を一時貯蔵する中間貯蔵施設を中国電力と関西電力が計画する山口県上関町の住民100人を対象に共同通信が実施した対面調査で、施設誘致について「反対」と答じた人が計59%に上ったことが24日分かった。理由は、そのまま永続的な処分場となることへの懸念が多かった。

【4面に関連記事】  
国の核燃料サイクル政策は原発で使った核燃料を再処理工場（青森県六ヶ所村）に搬出してプルニウムなどを取り出し、核燃料にして再び原発で燃やすことを目指す。中間貯蔵施設は、20年以上完成延期を繰り返している再処理工場へ搬出するまでの「仮置き場」と位置付けられているが、反対多数となった背景には実現が見通せない政策への不信があるとみられる。

調査は10月末から12月初旬にかけて実施。年齢や地区ごとの人口分布が町の美観に近くなるよう取材した。100人は直近の人口2277人の4%余り。

「反対」が29%、「どちらかといえば反対」が30%で計59%。理由は「永続的な処分場になる懸念がある」が11人で最多。「賛否を巡って町が分断」が10人で、「その他」として施設の安全性への懸念を挙げる住民も多かった。

「賛成」は14%、「どちらかといえば賛成」が27%で計41%。理由は「国の交付金で住民サービスが向上」が18人で最も多く「新たな雇用が生まれる」が6人で続いた。